

東名遺跡の整備と活用を考えるワークショップ便り

2022年 11月

東名遺跡が多くの人々に愛され守られる方法について市民参加により検討

佐賀市では、日本最古の湿地性貝塚である東名遺跡（約 8,000 年前、縄文時代早期）について、将来に渡って保存・活用していくため、現在、史跡整備の基本設計を進めています。隣接地には、ガイダンス施設を設置する予定で、佐賀市内の文化財の拠点である埋蔵文化財センターと組み合わせた複合施設とする計画です。今後この設計に基づいて、史跡や周辺の整備等、様々な取り組みを進めていく予定です。

そこで、東名遺跡や複合施設での新たな楽しみやイベントなど、より有効な活用方法について考える市民参加型のワークショップを開催しました。第1回「東名遺跡のことを知ろう」は本年10月23日に開催し、第2回「史跡地と複合施設の活用方法について考えよう」は本年11月19日に開催する予定です。

第1回ワークショップは、午前の部（小学生の親子）と午後の部（一般・団体）の2部に分け、東名遺跡に隣接する東名縄文館（佐賀市金立町千布/巨勢川調整池内）において開催しました。東名遺跡の近隣にお住まいの方々をはじめ、日頃より東名遺跡周辺でスポーツや自然観察等様々なご活動をされている方々、そして市の公式ホームページやチラシ配布等によりご興味を持たれた方々等、総勢42名の皆さんにお集まり頂きました。

その結果、東名遺跡の貴重な歴史資源と、遺跡を取り囲む巨勢川調整池ならではの自然環境を活かした、縄文生活体験や自然体験等様々な活動を、市民や観光客等多くの人々に向け展開していくアイデアが出されました。



第1回 2022年10月23日（日）

【午前の部】10:00～12:00 【午後の部】13:30～16:00

「東名遺跡のことを知ろう」

東名遺跡の概要と、東名遺跡や複合施設の整備概要について学び、東名遺跡の将来について話し合いました。



第2回 2022年11月19日（土）

【午前の部】10:00～12:00 【午後の部】13:30～16:00

「東名遺跡と複合施設の活用を考えよう」

東名遺跡の活用方法や、市民の取り組みについて考えます。



今後の佐賀市の取り組みに反映

第1回ワークショップ【午前部】の様子

「東名遺跡のことを知ろう」

＜午前部 プログラム＞

- 東名遺跡の特徴や遺跡の現状を知る。
- 東名遺跡の整備の計画を知る。
- 東名遺跡の将来について考える。



■お集まり頂いた参加者

佐賀市内の小学生と保護者を主体とし、小学生7名、保護者5名、佐賀大学生6名、計18名が参加されました。

■東名遺跡の特徴や遺跡の現状、整備の計画について

東名遺跡の特徴や重要性の説明を行い、活用事業の紹介を行いました。また、実際に出土品に触れる体験、東名縄文館に展示されている出土遺物の解説、東名遺跡現地とその周辺の見学で、歴史を遡り、東名遺跡について理解を深めていきました。

また、史跡東名遺跡整備事業の中核となる「東名遺跡ガイダンス」と、市内全域の発掘調査で出土した遺物や調査記録の整理、収蔵、保管及び展示公開を行う「埋蔵文化財センター」の2つの機能を有する複合施設の整備方針、東名遺跡出土品の展示方針、史跡地の活用方針について、ミニレクチャーを行いました。

■東名遺跡の望ましい活用について

現地確認とミニレクチャーの後、東名遺跡の活用方法と市民の取り組みについて、3つのグループに分かれて話し合っていました。

東名遺跡と複合施設の望ましい活用（理想的な姿・利用方法等）について、下記のようなキーワードに整理されるようなアイデアが出されました。参加者の皆さんは、東名遺跡について、巨勢川調整池の緑豊かな環境と広いスペースを活かした、自然観察、水辺遊び等の自然体験やジップライン、花火大会等のスポーツ、イベントができるような場所としての活用を望まれていることがわかりました。

また、複合施設について、東名遺跡という歴史資源を活かし、子どもたちが縄文時代の遺物に触れる、縄文時代のものづくりができる、生活体験等の学習体験ができる、遊び・学び・体験が一体となった開放的で多機能な施設で、先端技術を活かした縄文時代の歴史を体感できる場所を望まれていることがわかりました。

＜東名遺跡と複合施設の望ましい活用について＞

議論の観点	望ましい活用について（キーワード）
おもしろい!と思ったことは?	本物に触ったこと、現地風景を見学したこと、縄文の物語がわかったこと
東名遺跡やガイダンス施設で好きなところは?	本物に触れる、屋上から風景が見える、貝塚の断面が見える、縄文の歴史を学習できる、体験交流広場
東名遺跡やガイダンス施設がどんな場所になってほしい?	《複合施設》 縄文体験（発掘・縄文一日生活・火起こし・弓矢作り・縄文家作り・アクセサリー作り・貝を捨て続ける等）、歴史学習（本物に触る・VRで再現する・アニメで紹介する等）、展示空間（年ごとに、季節ごとに変わる）こども遊び場（ドローン撮影・滑り台・スタンプラリー等） 《東名遺跡（史跡地）》 自然体験（自然観察・キャンプ・ボート・ヘリ遊覧等）、イベント（イカダレース・花火大会・植栽等）、スポーツ

第1回ワークショップ【午後の部】の様子

「東名遺跡のことを知ろう」

＜午後の部 プログラム＞

- 東名遺跡の概要や史跡地の現状を知る。
- 東名遺跡や複合施設の整備の方向性について知る。
- 東名遺跡の将来的な活用（想定）について
- 東名遺跡の将来について語り合う



■お集まり頂いた参加者

普段から東名遺跡周辺において活動されている、グランドゴルフ・ウォーキング等のスポーツ活動の団体2名、花づくり・緑地管理、野鳥観察等の環境まちづくり活動をされている方3名、巨勢川調整池の活用活動をされている団体6名、まちづくりをされている団体3名、高齢者支援活動をされている団体3名、東名遺跡に興味を持つ一般市民3名、佐賀大学生4名、計24名が参加されました。

■東名遺跡の特徴や遺跡の現状、整備の計画について

東名遺跡の特徴や重要性の説明を行い、活用事業の紹介を行いました。また、実際に出土品に触れる体験、東名縄文館に展示されている出土遺物の紹介、東名遺跡現地とその周辺の見学で、歴史を遡り、東名遺跡について理解を深めていきました。

また、史跡東名遺跡整備事業の中核となる「東名遺跡ガイダンス」と、市内全域の発掘調査で出土した遺物や調査記録の整理、収蔵、保管及び展示公開を行う「埋蔵文化財センター」の2つの機能を有する複合施設の整備方針、東名遺跡出土品の展示方針、史跡地の活用方針について、ミニレクチャーを行いました。佐賀大学の三島研究室は、東名遺跡の将来整備像（想定）について説明しました。

■東名遺跡の望ましい活用について

東名遺跡と複合施設の望ましい活用について、5つのグループに分かれて話し合っていました。

それらの結果、老若男女幅広い層の利用者により、周辺の遺跡と連携しながら、縄文の歴史資源を活かした憩い・交流・学習体験等様々な活動を行うことができる、縄文の自然資源を守りながら、地元と連携するイベントを行うことができるアイデアが出されました。

＜東名遺跡と複合施設の望ましい活用について＞

議論の観点	望ましい活用について（キーワード）
おもしろい!と思ったことは?	縄文歴史・生き物・遺物を聞いた、見た、触ったこと、縄文の価値をわかったこと、現地風景を見たこと
東名遺跡やガイダンス施設で好きなところは?	展示計画で縄文の歴史を伝えること、展望台から現地風景を望むこと、広場を利用して縄文を体験できる施設、見える収蔵庫広場、立体剥ぎ取りの展示
東名遺跡やガイダンス施設がどんな場所になってほしい?	《複合施設》 東名遺跡についてわかりやすい展示スペース・VR技術を使用する展示家族と一緒に過ごせる場・体験できる場（ドングリ）、東名遺跡を研究する場・国内外へPRできる場 《東名遺跡（史跡地）》 遺跡の巡りコース（他の遺跡との連携）、自然環境の保全、アクセスしやすい場、住民と観光客を共生できる場